

脳神経外科

プログラム名： 岡山大学大学院脳神経外科

定員： 40名

プログラム年数： 3-4年

総医Cプログラム担当者： 脳神経外科(脳神経外科学2) 小野 成紀

総医C問合せ先： Tel. 086-225-2111(代表) 内線 85209(小野)

E-mail: onoshigek@med.kawasaki-m.ac.jp

研修スケジュール：

研修例

1-3年目：川崎医科大学総合医療センター脳神経外科で研修

3-4年目：岡山大学脳神経外科で1年から6ヶ月研修、その他連携施設での研修

基幹施設と連携施設：

基幹施設	岡山大学大学院脳神経外科	1年～6ヵ月
連携施設	川崎医科大学総合医療センター	3年～3年6ヵ月
	上記川崎医科大学総合医療センターの期間内で、希望により連携施設での研修も可能	1年～6ヵ月

プログラム統括責任者： 岡山大学大学院 脳神経外科 伊達 勲

プログラム基本情報： 当プログラムでは主に川崎医科大学総合医療センターでの豊富な多岐にわたる脳疾患症例を経験し、市中病院と大学病院の双方における脳神経外科医療、研究マインドなどを習得することを目標とする。当院で殆どの脳神経外科技術の習得、脳神経外科専門医習得に向けての経験すべき症例の担当が可能であるが、定位的脳手術、その他の症例を岡山大学病院をはじめとする中四国全域に分布する全国でもトップクラスの豊富な連携施設で学ぶことが可能である。

研修目標・到達目標：当プログラムの研修目標としては、川崎医科大学総合医療センターでは、1年時の研修期間で、気管切開、穿頭術、腰椎穿刺各種縫合、脳画像診断、開頭術、脊椎・脊髄手術の助手、一般的な脳血管造影検査まで上級医とともに施行可能な技術を習得することを目標とする。

2年時は、上述の手技や手術を執刀医として行い、転移性脳腫瘍摘出術における顕微鏡手術、脳出血や頭部外傷の開頭術を上級医とともに施行することを目標とする。

3年時は、顕微鏡下、脳動脈瘤クリッピング術や頭蓋内外血管バイパス術を執刀医として行うことを目標とする。

当科のプログラムで特徴的なことは、専門医取得前教育として、指導医の指導の下、可能な限り早くから脳外科手術の執刀症例が多く経験出来ることと自負している。

取得可能な専門医： 当科における取得可能な専門医は、脳神経外科専門医である。

脳神経外科専門医は外科、内科、産婦人科、泌尿器科、麻酔科などと同様の 19 基本診療科の専門医であり、脳腫瘍やくも膜下出血などのみならず、頭痛、リハビリ、脊椎、変性疾患、小児の脳の病気など幅広く専門的に診療を行う。脳神経外科専門医は脳疾患全般を専門的に診療する医師であり、必ずしも脳の手術に特化した専門医ではないことを強調したい。脳神経外科専門医を取得した後、川崎医科大学総合医療センター脳神経外科は、県下でも少ない殆どのサブスペシャリティー指導医を要する科であり、さらにその後のサブスペシャリティー取得も可能である。

脳神経外科サブスペシャリティー：脳神経外科専門医取得の後、数年のトレーニングで取得可能

- 1) 脊椎・脊髄専門医（腰痛、頸部痛、手術）
- 2) 脳血管内治療専門医（脳血管のカテーテル治療：脳動脈瘤コイル塞栓術など）
- 3) 小児脳神経外科専門医（子供の水頭症、頭蓋骨の奇形、脊髄髄膜瘤の手術など）
- 4) 脳卒中専門医（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの治療）
- 5) 神経内視鏡期術認定医（頭蓋底腫瘍、下垂体腺腫など内視鏡での腫瘍摘出など）

脳神経外科専門医コース モデルプログラム 等

初期研修 2年

初期研修終了後 脳神経外科専門医取得のためプログラムに参加

川崎医科大学総合医療センターで 3-4 年研修（脳神経外科専従）

（この間、半年から 1 年半程度連携施設にて研修可能：タイミングはいつでも自由に選択可能）

その後脳神経外科専門医試験を受験（筆記試験と口頭試験）